復刻版 近代日本博覧会資料集成

壮大なメディアイベントとして
多様化していく大正・昭和戦前期の〈博覧会〉。
散逸するおそれの強い公式報告書・写真帖
などの諸資料を復刻し、
経済史、メディアスタディーズ、植民地研究など、
さまざまな分野から注目を浴びる
その全容を浮かび上がらせる資料群を集大成！

二〇一二年九月刊行開始！

▽総監修　津金澤聰廣（関西学院大学名誉教授）
山本武利（早稲田大学名誉教授）

国書刊行会

復刻版 近代日本博覧会資料集成

◎総監修
津金澤聰廣　関西学院大学名誉教授
山本武利　早稲田大学名誉教授

◎推薦者（五十音順）
老川慶喜　立教大学教授（経済史、鉄道史、満州史）
君塚仁彦　東京学芸大学教授（戦争の表象・博物館学）
藤岡洋保　東京工業大学大学院教授（建築史）

◆配本予定・構成

〈第1回配本〉
《植民地博覧会Ⅰ 台湾》全3巻
第1巻　始政四十周年記念台湾博覧会誌
（1939年、1120ページ、B5判）
第2巻　始政四十周年記念台湾博覧会協賛会誌
（1939年、560ページ、B5判）
第3巻　始政四十周年記念台湾博覧会写真帖
（1939年、230ページ、A4判）
編・解説＝林恵玉（中央大学講師・台湾研究）
原本提供：滋賀県立図書館
全3巻揃定価：本体89,000円＋税（分売不可）
ISBN:978-4-336-05545-3　2012年9月発売予定

〈第2回配本〉
《植民地博覧会Ⅱ 満洲》全5巻
編・解説＝川崎賢子（日本映画大学教授）
第1巻　大連市催満洲大博覧会会誌
（1934年、780ページ、A5判）
第2巻　大連市催満洲大博覧会協賛会誌
（1933年、176ページ、A5判）
第3巻　風薫る大連と満洲大博覧会／満洲大博覧会案内／満州風物写真帖
（1933年、190ページ、A5判）
第4巻　大連勧業博覧会誌
（1926年、540ページ、A5判）
第5巻　大連勧業博覧会記念写真帖
（1925年、198ページ、B5判）
編・解説＝川崎賢子（日本映画大学教授・文学）
原本提供：愛媛県立図書館、国際日本文化研究センター、東京学芸大学
全5巻揃予価：本体93,000円＋税（分売不可）
ISBN:978-4-336-05552-1　2012年12月発売予定

◆以下続刊（予定）
《婦人・こども・電気博覧会》
編・解説＝木村涼子（大阪大学教授・女性史）
《戦時・国防博覧会》
編・解説＝加藤哲郎（一橋大学名誉教授・政治史）、井川充雄（立教大学教授・メディア史）、福間良明（立命館大学准教授・メディア史）
《東京大正博覧会》
編・解説＝吉見俊哉（東京大学大学院教授・社会学）
《平和記念東京博覧会》
編・解説＝土屋礼子（早稲田大学教授・メディア史）

書店外商のみなさまへ

博覧会資料は、幅広い分野での活用が期待されます。複数の大学学部への販売促進をお願い申し上げます。

- 経済学部・商学部・法学部系▷経済史、産業史、交通史、社史、行政史
- 文学部系▷近代史、文学史、女性史、軍事史、人類学、植民地研究
- 理工学部系▷建築史、技術史
- 社会学部系▷メディアスタディーズ
- 教育学部系▷教育史、博物館学
- 家政学部系▷服飾史、住居史
- 芸術学部系▷美術史、工芸史、デザイン史、音楽史、演芸史
- 観光学部系▷観光学

…ほか

また、各県特設館の出品目録等、県・市立図書館の郷土資料としても有用です。

国書刊行会
〒174-0056　東京都板橋区志村 1-13-15
TEL：03-5970-7421　FAX：03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp　e-mail:sales@kokusho.co.jp

内容見本

檢温器	一打	一二、〇〇〇	山口縣	柏木幸助
田中式解剖顯微鏡及同描畫裝置	二箇	四四、五〇〇	東京府	田中合名會社
化學用天秤並ニ分銅	二箇	二二二、〇〇〇	同	守谷定吉
特許單孔式活動寫眞撮影印畫及映寫兼用機械	一組	五八、〇〇〇	同	會根眞文
映寫用大形光爐	一組	五八、〇〇〇	同	同
單孔式映畫フィルム	五種	五〇、三〇〇	同	同
堀井鐵筆謄寫版	一組	二〇、〇〇〇	同	堀井新治郎
山田流箏	一箇	二一〇、〇〇〇	同	林才平
バイオリン	一箇	一〇〇、〇〇〇	愛知縣	鈴木政吉

第二部

品名	數量	價額	地方名	出品人名
水墨山水(日本畫)	一枚	六〇〇、〇〇〇	東京府	山岡米華
秩父の赤壁(同)	一枚	二〇〇、〇〇〇	同	高島北海
並木道(西洋畫)	一枚	五〇〇、〇〇〇	同	太田喜二郎
木陰の人等(同)	一枚	一〇〇、〇〇〇	同	大野隆德
活歩(彫刻)	一箇	二五〇、〇〇〇	同	國方林三
光(同)	一箇	二五〇、〇〇〇	同	藤井浩祐

五百九十

群猿(彫刻)	一箇	一〇〇、〇〇〇	同	金田兼次郎
隷書大字	二曲一隻	三五〇、〇〇〇	同	中根半嶺
石印	二顆	一〇〇、〇〇〇	同	岡村梅軒
同	三顆	二五〇、〇〇〇	同	足達疇邨
白玉印	一顆	四〇、〇〇〇	同	郡司之教
鐵打出寒山拾得	一顆	六四〇、〇〇〇	石川縣	山田宗美
黄銅日本海彫香爐	一顆	二五〇、〇〇〇	島根縣	鹽津親次
蠟銅睡鴨香爐	一箇	八〇、〇〇〇	東京府	香取秀眞
青銅百獸式香爐	一箇	一五〇、〇〇〇	滋賀縣	塚本松磬
木象嵌鶏圖掛額	一面	一五〇、〇〇〇	東京府	由井長
石塘花鳥圖文庫	一箇	三五〇、〇〇〇	同	豐川楊溪
鷓鴣蒔繪手箱	一箇	四〇〇、〇〇〇	京都府	岡本專助
孔雀唐草模様花瓶	一箇	一二〇〇、〇〇〇	東京府	板谷波山
天鵞絨友禪桐鳳紋壁掛	一枚	三八五、〇〇〇	京都府	西村總左衛門
斜陽の里	一枚	五〇、〇〇〇	東京府	野村笑水

第三部

品名	數量	價額	地方名	出品人名
生絲	一括	三七、五〇〇	愛知縣	原名古屋製絲所

五百九十一

◉『東京大正博覧会事務報告』（1931年）より　（原寸60%縮小）

「天皇皇后両陛下行幸ノ際御目ニ止マリタル出品物ニシテ御買上」品の一覧。板谷波山や香取秀真らの名も見える。

第二編　會務　第六章　出品

八	一	四季の果實及蔬菜	東京	中村商會
九	一	落花生生産狀況	大阪	梅本裝飾合資會社
一〇	一	棉栽培及處理狀況	同	同
一一	一	育蠶及蠶種製造狀況	同	同
一二	一	豚コレラ豫防狀況	同	同
一三	一	家畜飼養狀況	同	同
一四	一	島内消費肥料	同	同
一五	一	島内消費農藥	同	同
一六	一	在來及改良農具	同	同
一七	一	移民の活動狀況	臺北	臺灣ネオン合資會社
一八	一	農業の臺灣模型	橫濱	トンボ屋
一九	一	花卉盆栽用陳列臺	東京	中村商會
二〇	三	マグロ延繩漁業狀況	同	カブキヤ
二一	三	鷺鷥鼻附近漁業狀況	同	同
二二	三	トロール漁業狀況	同	同
二三	三	ボラ旋網漁業狀況	同	同
二四	三	惣田[illegible]定置漁業狀況	同	同
二五	三	鰹釣漁業狀況	同	同
二六	三	水産試驗研究標本及見本陳列臺	臺北	秋本裝飾部

二七	三	鐵製及其の製品陳列臺	臺北	秋本裝飾部
二八	三	臺灣附近漁場模型	橫濱	トンボ屋
二九	六	窯業狀況	臺北	臺灣ネオン合資會社
三〇	六	油脂薫香工業狀況	同	同
三一	八	製麺狀況	同	同
三二	七	織物裝身具工業狀況	同	商業美術社
三三	八	食料工業狀況	同	同
三四	九	木工家具	同	臺灣ネオン合資會社
三五	九	竹細工	同	同
三六	九	藺草紙製造狀況	同	同
三七	一〇	島外の貿易	同	福井現代社
三八	一〇	土産品	同	同
三九	一	農工業の過去、現在、未來	東京	カブキヤ

本會は又、嘉南大圳組合の委託に係る場面の外、十三場面の陳列裝飾の委託を受けたが、出品部では之に付ても夫々裝飾請負者を指定し、意匠設計の大要を示して、之に施工せしめた。其の出品別委託者及施工請負人は左の通。

部別	出陳物	出品者 住所	出品者 氏名	施工者 住所	施工者 商號
一	三年輪作	臺南市	嘉南大圳組合	大阪市南區日本橋北詰	梅本裝飾合資會社

六	製紙	臺中州豐原街	豐原製紙製材株式會社	臺北市榮町三丁目	秋本裝飾部
六	香水類	臺北市八甲町二ノ三九	山口彌之助	同	同
八	醬油	同 末廣町一ノ二	太田房太郎	臺北市大和町四ノ八	福井現代社
八	清涼飲料水	同 龍口町三ノ二四	長谷川春吉	同	同
八	同	同 御成町二ノ六	張文杞	同	同
八	豚肉製品	嘉義市西門町三ノ一〇二	陳榮華	同	同
七	織布狀況及織布	臺南市大和町二丁目	臺灣織布株式會社	臺北市榮町三丁目	秋本裝飾部
九	疊スタンド	高雄市鹽埕町一二ノ九	龜井保太郎	同	同
九	木彫品	臺北市京町一二ノ三	陳己之	同	同
一〇	茶業組合の狀勢	臺灣總督府構内	茶業組合協會	大阪市南區日本橋北詰	梅本裝飾合資會社
九	美術漆器	臺北市太平町一ノ二八	林世藩 孫洋泰	臺北市榮町三丁目	秋本裝飾部
九	文石加工品	澎湖廳馬公街	澎湖文石商組合	同	同
九	製帽狀況及製品	臺中市州勸業課内	臺灣帽子同業組合聯合會	東京市淺草區猿若町	カブキヤ

以上の外土間百二十六坪五、陳列戸棚及臺五十四小間は官廳及個人出品者の施設に委されたが、其の内陳列室用土間使用者に對しては、豫め裝飾業者を紹介すると共に其の設計を出品部に提出せしめ、不適當なものは訂正せしむる方法を採り、普通土間の使用者並に陳列棚の使用者に付ては、書面だけでは徹底し難いのを慮り、之を本會に招集し、陳列裝飾を爲す爲に、必要な方法を指示すると同時に本會の裝飾方針を示し、他の陳列裝飾と不調和にならぬ樣注意した。

即ち之等の出品者七十四件の内、日本炭酸株式會社、木戸慶藏、アルテックス製作所、臺北染物業組合、陳審花、八木貫次、劉同盛、中山國壽及山中公の九件は、各自出品者自身に於て施行したものであつた。

右陳列裝飾の出品者別裝飾請負人は左の通である。

第二編　會務　第六章　出品

部別	出陳物	出品者 住所	出品者 氏名	施工者 住所	施工者 商號
一	殺虫劑	臺北市大正町三ノ三〇	瀧口謙一	臺北市大和町四ノ八	福井現代社
一	牛乳	同 大安字十二甲	塚本國太郎	同	同
一	サイザル	高雄州恒春郡恒春庄龍泉水	臺灣纖維株式會社	大阪市南區長堀筋二丁目	くろふね裝飾合資會社
一	肥料	基隆市田寮町九五	臺灣肥料株式會社	山口縣吉敷郡宮野村	記念商會
一	牛乳及乳製品	臺北市幸町一七	臺灣畜產株式會社	臺北市大和町四ノ八	福井現代社
一	珈琲	嘉義市東門町三ノ三	木村コーヒー店 嘉義農場	同 本町二ノ二六 / 東京市本所區錦絲町二丁目	商業美術社 / 堀切勝藏(内部)
一		臺北市太平町	臺灣茶業宣傳協會	大阪市南區日本橋北詰	梅本裝飾合資會社
一	青果	臺灣總督府特產課内	特產青果宣傳部	東京市下谷區池之端七軒町二八	研精社
一	農業試驗成績	臺北市富田町	中央研究所農業部	臺北市本町二ノ二六	商業美術社
一	農具	臺南市入船町二ノ一七〇	木戸慶藏	大阪市南區日本橋北詰	梅本裝飾合資會社
六	漆	臺北市新起町三ノ七	謝永火	臺北市榮町三丁目	秋本裝飾部
六	デシン	同 綠町三ノ八五	小林榮次	大阪府中河内郡布施町六八	萬美社
六	白粉	同 新富町二ノ三〇	高金漢	臺北市新富町五ノ一三〇	東光スタヂオ
三 九	珊瑚漁業 珊瑚製品	同 榮町二ノ一七 山特產販賣所内	臺灣珊瑚商聯合組合	大阪府中河内郡布施町六八	萬美社
六	石鹼	同 綠町四ノ一六	臺灣石鹼合資會社	臺北市本町二ノ二六	商業美術社
六	同	同 建成町二ノ一一	池澤次郎	同 榮町三丁目	秋本裝飾部
六	同	同 老松町三ノ八	濱角秀吉	大阪府中河内郡布施町六八	萬美社

◉『始政四十周年記念台湾博覧会誌』（1939年）より　（原寸50%縮小）

「第二編　会務　第六章　出品」より。台湾における企業・商店の、所在地や商品を知ることができる。

総監修にあたって

津金澤聰廣
（関西学院大学名誉教授）

博覧会は、その時代の政治や風俗を体現する壮大な祭りであった。19世紀のロンドン、パリ、ウィーン、シカゴなど欧米で始まった万国博覧会は、近代日本の殖産興業や西欧文化の導入に大きな影響を及ぼしたといわれる。

明治初年代には、博覧会は文明開化の新風俗として流行するが、ことに明治政府は殖産興業と富国強兵のための装置として、１８７７（明治10）年以降、内国勧業博覧会を五回にわたり、大々的に主催している。１９０３（明治36）年、大阪での第五回内国勧業博では従来とは異なり、その見世物性、娯楽性を前面に演出し、集客４３５万人の博覧会となった。その後の「東京大正博覧会」（１９１４年）「平和記念東京博覧会」（１９２２年）はじめ人気のある博覧会は、いずれも民間の新聞社、百貨店、電鉄などが参入し、その見世物的な遊びの要素を活用して話題と集客を増幅させた。

昭和に入ると、国内ばかりでなく朝鮮・満州・台湾など当時の植民地政策を正当化するための植民地での物産や風俗紹介の博覧会も目立ち、他方では、軍事・国防・聖戦など、陸軍・海軍との共催の、いわゆる戦時博覧会も国民の戦意高揚のため積極的に開催された。

本資料集成は、比較的現存資料の乏しく入手困難な大正期と昭和戦前の博覧会資料を収集・復刻し、解説・解題を付したものである。従って、人気のある主な博覧会でも、現存資料が多く残っているものは対象外とした。

山本武利
（早稲田大学名誉教授）

明治期を通じて新聞紙面に継続的に博覧会記事が掲載されていたのは、それらが読者獲得のためのメディア・イベントであったからである。大正期になると、消費社会を煽るための企業主催博覧会が多くなり、中央、地方の新聞社がそれに協賛し、紙面で読者サービスを行う形が増えた。そして昭和の戦時になると、政府や軍部が関与する博覧会が増加した。台湾、朝鮮、満州などの植民地でも博覧会は開かれたが、それは日本の植民地支配を正当化させる宣撫的なねらいを持っていた。また平時ではメディアが深く関与できた博覧会も、戦時にはメディアが関与し難い運営形態となった。

いつの時代にも博覧会は、国内でも植民地でも多数の観客を集めた。その動員に権力側の強制があった面は否定できないが、大多数の観客は自主的に会場に足を運んでいた。少なくとも日本人は博覧会を楽しんでいた。相撲とか野球に相当する楽しい国民参加のイベントであったことはたしかである。

ところが博覧会の足跡を示す資料を体系的、集中的に所蔵する機関は意外と少ない。本資料集成は、地方や植民地、戦時の博覧会への目配りに留意しつつ、それらの公式報告書・協賛会報告書・写真帖などを広く収集するものである。

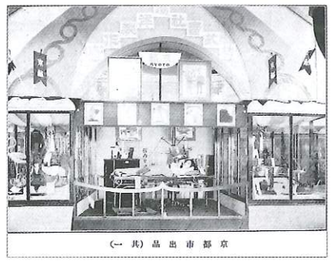
興味の尽きない「博覧会報告書」

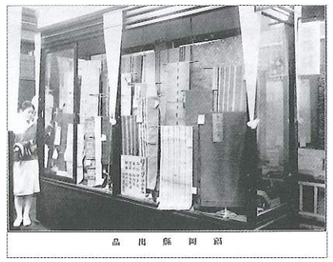
老川慶喜（立教大学教授・経済史）

19世紀から20世紀にかけて開催された国内外の博覧会は、近代日本の工業化に大きな影響を及ぼした。1862（文久2）年にロンドン万国博覧会を見学した福澤諭吉は、博覧会を「その国の名産、便利の機械、古物奇品を集め、万国に示」し、知識や技術を交換して文明を発展させる場であるとした。明治政府は、こうした博覧会を殖産興業政策のなかに位置づけ、万国博覧会を通じて欧米の技術や制度を積極的に導入し、内国博覧会を各地で開催し、諸産業の発展をはかった。

博覧会は、経済政策や産業政策の重要な一環であった。内国博覧会は、日清戦争後に開催された第五回内国博覧会を境に殖産興業政策的な「勧業」博から「帝国」の博覧会へと性格を変えたとされるが、「勧業」的な意味がなくなったわけではない。むしろ、博覧会報告書には開催時における日本経済の諸問題が凝集されており、興味の尽きない経済史・産業史研究上の貴重な資料といえる。しかし、これまで必ずしも十分に利用されてきたわけではない。このたび国書刊行会から、各種博覧会の報告書が刊行されることになったが、多くの経済史や産業史の研究者に利用されることを願ってやまない。

『大連勧業博覧会誌』（1926年）より


『大連勧業博覧会誌』（1926年）より　京都市出品／福岡県出品



博物館学研究の基礎資料として

君塚仁彦（東京学芸大学教授・博物館学）

大航海時代・植民地主義の時代を通じ、「まなざす」主体としてのヨーロッパが成立し、「発見」された多様な世界が分類、秩序づけられ、蓄積された膨大な「知」を市民に公開する装置として近代博物館が成立する。

この流れを基に、その後の博物館の展開に大きな影響を及ぼしたのが産業革命と博覧会である。産業革命による科学技術の発展は人びとのライフスタイルや社会を大きく変えたが、その成果の宣伝・普及と植民地主義が結び付いた国威発揚のための祭典が博覧会であった。19世紀以降、欧米では博覧会を契機に多くの博物館が設立され、近代博物館の歴史において博覧会は重要なファクターとなっていく。

本資料集成には、植民地帝国としての近代日本が、台湾や「満洲」などで開催した博覧会をはじめ、婦人・こども・電気博覧会、戦時・国防博覧会、東京大正博覧会、平和記念東京博覧会など、現在では入手困難な博覧会資料が多数収録されている。いずれも、日本における博覧会研究だけではなく、博物館学研究の基礎資料としても重要な内容を持っている。「近代」とは何なのか？――博覧会を通じてその意味を考えていく上でも、また、博物館学研究を志す者にとっても、重要かつ必要不可欠な資料群であると言えよう。

『支那事変聖戦博覧会誌』（1940年）より

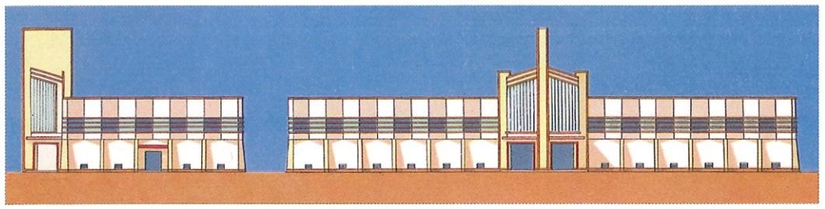
『名古屋汎太平洋平和博覧会誌』（1938年）より

時代の技術や物産、デザインを映し出す史料としての博覧会報告書

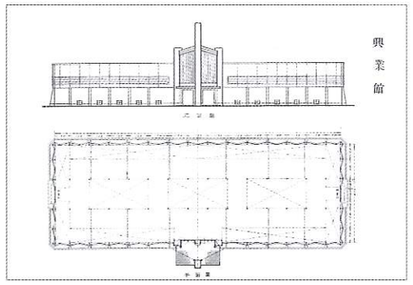
藤岡洋保（東京工業大学大学院教授・近代建築史）

19世紀後半から20世紀は「博覧会の世紀」として知られる。日本は海外の万国博覧会に積極的に参加しただけではなく、国内や植民地でも数多くの博覧会を開催した。それは、この時代が国民国家の形成期で、日本も他の国民国家に伍して発展するために殖産興業を推進する必要があり、さまざまな物品を一堂に集めた博覧会がその啓蒙の場として重要だったからである。

博覧会開催に際しては、農商務省（商工省）などの支援の下に実施のための組織がつくられた。博覧会終了後、それらの団体は詳細な報告書を出している。それは、出品物や、会場の様子、関係者などを記録するためだった。博覧会は期間限定なので、この報告書こそがその様子を知るための最良の手がかりになる。それを繙けば、当時の最新技術や特産品について知ることができるのである。


『始政四十周年記念台湾博覧会誌』（1939年）より　［興業館の外観・建築図面］

（上）興業館及第二府県館



また、会場に建てられたパヴィリオンは、仮設とはいえ、あるいは仮設だからこそ、建築家が新しいデザインを試みる機会になり得たし、ある国や地域の独自性をパヴィリオンのデザインに表現しようとすることもあった。たとえば、東京大正博覧会（1914年）では、ウィーンではじまったセセッションという最新のデザインが多くのパヴィリオンに適用され、建築が変わりつつあることをアピールする契機になったし、大連市催満洲大博覧会（1933年）では、正門や迎賓館、演芸館などに当時流行していたアール・デコの影響が見られる。これらの報告書には、パヴィリオンのデザインだけではなく、ポスターなどの図版も掲載されている。

このように、博覧会の報告書は、技術や建築、デザイン、工芸など、当時のさまざまなジャンルについて知ることができる貴重な史料なのである。今回の復刻によって、この史料に接しやすくなるのは大変喜ばしいことといえる。

『始政四十周年記念台湾博覧会誌』（1939年）より　協賛会発行記念絵はがき
木下静涯筆・淡水雨後／呂鉄州筆・胡蝶蘭／郷原古統筆・花蘇断崖

『大連市催満洲大博覧会誌』より目次（抄録）

論
本会開催の目的と其の使命／大連市の現勢／本会開設に至るまでの経過
開会以前
計画の梗概／経費予算
組織と機関
会則の制定／諸機関
準備事務
準備工作／事務局
出品勧誘
出品協議会／出品規程の制定／全国勧業主任者会議
宣伝振作
宣伝用ポスター／宣伝歌募集／宣伝歌「ミス満洲」／パンフレット／新聞雑誌宣伝／ラヂオ放送／娘々祭利用宣伝／各種宣伝／協賛会の宣伝
観覧客其他に対する手配
観覧団体客の取扱／旅客収容能力／宿泊料の割引／満洲人見学団の取扱／関税免除／船車運賃の割引／運賃の協定
会場敷地の選定
敷地と環境／土地の借受
地鎮祭
上棟祭
別館の施設計画
会場諸工作
造園と農園
造園／児童遊園地／満洲農園
電気と瓦斯と水道
建設物一覧
出品の申込並陳列
出品物の搬入
特設館其の他の申込
観覧と入場券
福券附入場券
無料入場証と其の種別
其の他の諸施設
警備と防疫
交通運輸
開会以後
開会の宣伝
警備と衛生
会場内の諸設備
開期中の宣伝
各館の内容
本館／第一号本館／第二号本館／第三号本館／第四号本館／第五号本館／別館／建国館／機械館／貿易館／建築館／国防館／土俗館／教育衛生館
特設館と特設物
福岡館／八幡製鉄所特設館／広島館／静岡館／朝鮮館／大阪館／東京館／奈良館／京都館／愛知名古屋館／兵庫館／台湾館／熊本館／北海道館／宮崎館／関東庁館／神奈川館／岡山館／満鉄館／住友館／三菱館／三井館／電気普及館／瓦斯館／京城紡織館／其他の特設館と特設物
出品人員と点数
出品物の売約
福券附入場券の発売と当籤金
入場者の状況
接待
観覧者接待／満洲国人観行団／日本新聞協会大会／日満実業懇談会／満洲薬学会大会／其他の接待
協賛会
出品物の審査
各種の催物
福引デー／国防デー／満洲国デー／宝探しデー／子供デー／第二回福引デー／市民デー／その他の催物（生花茶の湯大会・馬匹共進会・全満写真美術展覧会・満博バンド演奏・島根の夕・愛知名古屋デー・おけさ踊の夕・大阪デー・協賛会デー・朝鮮デー・喇嘛祭事・楽天地デー・サクラカメラデー・聖徳おどり・満鉄デー・軍用犬共進会・大連新聞デー・福岡デー・京都デー・「ミス満洲」の夕・天后宮祭事・海軍々楽隊の夕・満洲日報デー・生魚放流式）
閉会式
感謝状と記念品
決算と残務整理

『平和記念東京博覧会事務報告（上・下）』より目次（抄録）

第一編　総叙
第一章　開催ノ主旨及経過
第二章　組織
第一節　博覧会規則／第二節　出品部類目録
第三章　会議
第四章　儀式
第五章　成績
第二編　開会前ノ設備
第六章　会場
第一節　敷地ノ選定／第二節　会場ノ配置
第七章　公営
第一節　起工及竣成／第二節　第一会場建築物／第三節　第二会場建築物／第四節　特設館／第五節　道路水道溝渠及橋梁／第六節　電気瓦斯装置／第七節　建築装飾／第八節　園芸装飾／第九節　建築費
第八章　出品
第一節　出品ニ関スル規程／第四節　外国製品出品／第六節　出品鑑査
第九章　運賃及関税
第十章　特設物及広告物
第十一章　諸般ノ準備
第三編　開会中ノ施設
第十二章　会場設備
第一節　通信／第二節　衛生／第三節　救護
第十三章　会場ノ取締
第十四章　出品
第一節　出品台帳／第二節　出品統計／第四節　売約
第十五章　審査
第十六章　褒賞
第十七章　行啓及台臨
第一節　皇后陛下行啓／第二節　皇太子殿下行啓／第三節　英国皇太子殿下台臨／第五節　御下賜金
第十八章　夜間開場
第十九章　観覧
第二十章　諸団体ノ施設
第一節　新聞社ノ施設／第二節　特種団体ノ施設
第二十一章　宣伝振作
第一節　各種宣伝及通信／第二節　ポスター／第四節　福引／第七節　各種大会
第四編　残務整理
第二十二章　残務整理
第一節　売約品及売約代金
第二十三章　経費及収入
第五編　協賛会
第二十四章　組織
第二十五章　設営
第二十六章　事業
第一節　接待／第二節　余興／第三節　各種ノ施設
第二十七章　経費
附録役員職員

内容見本

だけで良縁を得、安産する事疑ひなしである。
英國十八世紀時代の婚礼衣裳、世界各國花嫁人形、調度品、日本古来の文、方鏡類、梅唐草裳紋散鏡台外鏡台類、鏡裳道具、化粧道具、行器、箱迫、婚礼提灯及奈良女子高師出品の各種角かくし、綿帽子類等々総て貴重な資料たるを失はないものである。二階へ昇ると有職故實に依る「婦人、誕生より結婚まで」の等身大人形數十個を使用した絢爛たる大パノラマ展である。

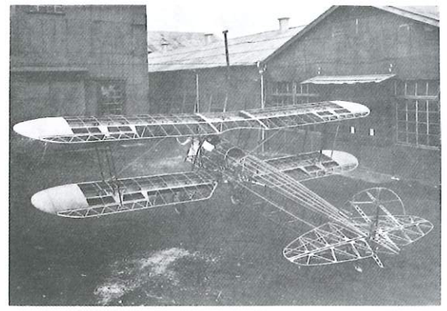
裳衣礼婚の代現及代古度印

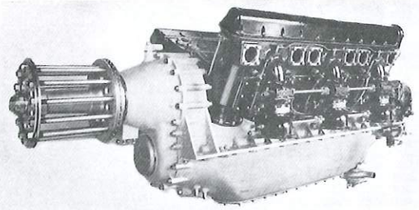
平安朝、徳川時代の宮廷、民間の結入諸儀礼を「誕生飾り」より「床入」まで十場面に設らへてあり、人形着附衣裳、調度品等名匠の作になるものもあり、當時近衛、徳川、島津、池田、大谷各家御使用のものも多く、優雅典麗の昔も偲ばれて見る人の足を停めて離さない。蓋し、當博覧會の壓巻であらう。三階へ昇ると諸名家御秘蔵婚礼衣裳調度展である。筑摩家九條家御出品の遠賀公御着用の衣冠束帯、東本願寺大谷家御出品の智子裳方（皇后陛下御在君）御降

宮社神酒るあ絲因に産安び結緣
書緣因の符護北眞

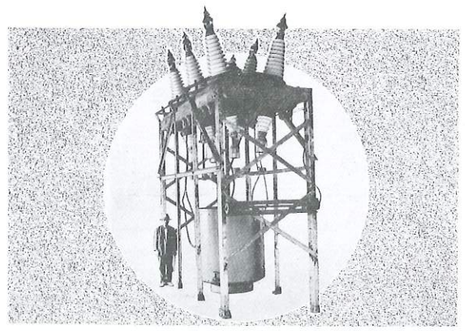
— 9 —

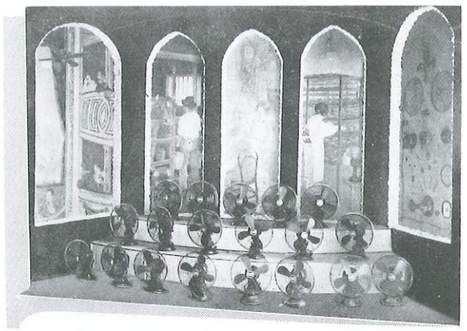
◉『日本婚礼進化博覧会誌』（1936年）より
……《婦人・こども・電気博覧会》に収録


組骨機行飛標型 3R 製所作製機行飛島川石 圖五第


機動發力馬〇五四ザイスノバスイ製社會式株機空航亥三 圖六第

◉『日本海々戦　海と空の博覧会報告』（1930年）より
……《戦時・国防博覧会》に収録


品製所作製撰電上井社會式株
其器高特盤電配


部一の列陳品出社業企氣電北川社會式株

◉『電気大博覧会報告』（1927年）より
……《婦人・こども・電気博覧会》に収録

◉『大東亜建設博覧会画報』（1939年）より
……《戦時・国防博覧会》に収録